

**船橋市橋梁長寿命化修繕計画
【横断歩道橋編】**

令和5年3月

船橋市 建設局 道路部 道路維持課

－ 目 次 －

	PAGE
§ 1. 計画概要	1
§ 2. 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針 . . .	2
§ 3. 対策優先度の設定	3
§ 4. 新技術等の活用方針	5
§ 5. 集約化・撤去等に関する方針	5

船橋市橋梁長寿命化修繕計画【横断歩道橋編】

§ 1. 計画概要

1. 目的

船橋市では、高度経済成長期に建設された橋梁の高齢化進行に伴い、架設後 50 年を超える老朽橋の増加、維持管理費の増大が懸念される状況にあります。

このような背景を踏まえ、限られた予算制約下で効率的・効果的に維持管理し、市民が安全・安心に利用できるよう橋梁を維持管理していくことを目的とします。

本計画書は、令和 2～3 年度に実施した橋梁点検結果を踏まえ見直しを行った「船橋市橋梁長寿命化計画」より、横断歩道橋について抜粋したものです。

2. 基本方針

長寿命化修繕計画の基本方針は、以下に示すとおりとします。

- これまでの対症療法的な「事後保全型」の維持管理から、点検により損傷状況を把握した上で、計画的・予防的な対策により橋梁の長寿命化を図る「予防保全型」の維持管理への転換を図ります
- 5 年に 1 回の定期点検の実施により、管理橋の安全を確保するとともに、橋梁長寿命化修繕計画の継続的な見直しに必要な状況を情報の収集を行います
- 管理橋の重要度に応じた維持管理方針を設定することで、限られた予算制約下において効果的かつ実効可能な維持管理計画を立案します

3. 対象横断歩道橋

長寿命化修繕計画の対象橋梁 262 橋のうち、横断歩道橋 4 橋を対象とします。

表 1.1 対象横断歩道橋一覧表

橋梁番号	橋梁名	路線名	架設年	橋長 (m)	幅員 (m)	橋梁形式	所在地	点検結果		次回点検予定
								点検実施 年度	判定 区分	
12-00005	(仮称)北習志野駅前歩道橋	00-018	不明	48.50	2.80	プレートガーター型式	習志野台 3-1-1	R3 年度	II	R8 年度
12-00018	(仮称)小室駅前広場スロープ	00-001	不明	42.00	3.20	RC ラーメン橋	小室町 3322	R3 年度	II	R8 年度
12-00004	(仮称)船橋新京成団地センター 前歩道橋	00-117	不明	20.00	1.90	プレートガーター型式	金杉台 1-13	R3 年度	II	R8 年度
12-00017	海神歩道橋	14-003	2007	26.70	2.60	プレートガーター型式	海神 2-1434-15	R3 年度	II	R8 年度

§ 2. 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針

1. 健全度の把握

(1) 健全度の診断

横断歩道橋 4 橋の健全度の診断は「横断歩道橋定期点検要領：国土交通省 道路局」に準拠して行います。

横断歩道橋の健全度は、部材単位の健全度が横断歩道橋全体の健全度に及ぼす影響が構造特性や架橋環境条件、当該橋梁の重要度等によっても異なるため、部材単位の健全性の診断結果を踏まえて、総合的に判断するものとします。

一般的には、横断歩道橋の性能に影響を及ぼす主要な部材に着目して、最も厳しい健全性の診断結果で代表させるものとします。

表 2.1 判定区分表

区分		解説
I	健 全	道路橋の機能に支障が生じていない状態。
II	予防保全段階	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
III	早期措置段階	道路橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
IV	緊急措置段階	道路橋の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が高く、緊急に措置を講ずべき状態。

(2) 横断歩道橋の健全度

令和 3 年度に実施した定期点検結果を踏まえ、横断歩道橋 4 橋の健全度を以下に示します。

IV（緊急措置段階）、III（早期措置段階）の横断歩道橋はなく、II（予防保全段階）が 4 橋となっています。

横断歩道橋の材質による種別では、鋼橋が 3 橋（75%）、コンクリート橋が 1 橋（25%）となっています。

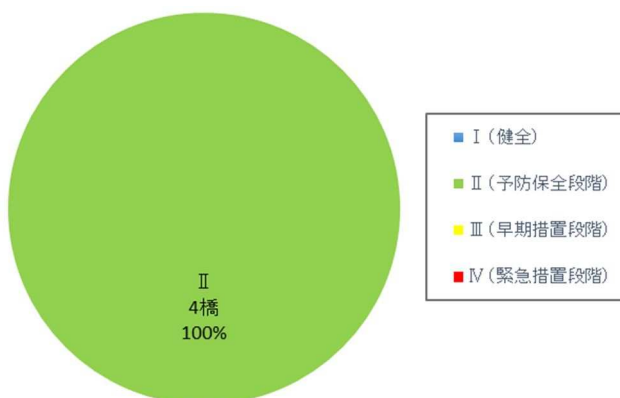


図 2.1 横断歩道橋の健全度の割合

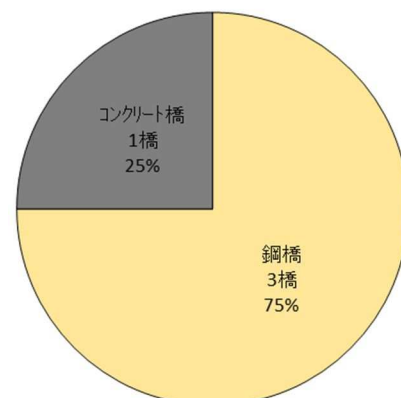


図 2.2 材質による種別の割合

1. 対策優先度の策定方針

また、中長期的な観点から補修を行うのが望ましい橋梁（Ⅱ判定の橋梁）の優先度は、対象橋梁の特性を踏まえた評価指標を定めた上で設定します。

評価指標 4：損傷程度を加味した順位

- Ⅲ（早期措置段階）の橋梁の補修が完了した後は、Ⅱ（予防保全的段階）の補修へと移行していきます。

- 「跨線橋・跨道橋」を対象に第三者被害の防止を目的とした「剥落防止対策」と「橋長 100m以上の橋梁」および「機能を失うと孤立する地域に架かる橋梁」を対象に大規模地震時の落橋・倒壊の防止を目的とした補強の実施を優先的に進めていきます。

- 前項までに整理した内容を踏まえ、橋梁の健全度による対策優先度を以下の通りに設定します。

重要度		区分
高 ↓ 低	跨線橋・跨道橋	①
	緊急輸送道路	
	橋長100m以上橋梁	②
	観光地へのアクセス道路にかかる橋梁 又は 孤立防止の橋梁	③④
	幹線1級	⑤
	幹線2級	⑥
	橋長15m以上の橋梁	⑦

- 橋梁重要度の区分分けが同じ場合は、架設年 → 橋長 → 幅員の順番で長い年月が経過し、橋長・幅員の長い橋を優先とします。

対策優先順位表

[illegible]

§ 4. 新技術等の活用方針

橋梁点検および橋梁補修工事において、国土交通省の「新技術情報提供システム (NETIS)」及び「点検支援技術性能カタログ」における新技術や新工法を積極的に取り入れることにより、コスト縮減や事業の効率化などを考慮した維持管理に努めます。

1. 橋梁点検における新技術等の活用

過年度の定期点検において、「高所作業車」を使用した横断歩道橋 3 橋について、点検用ロボットカメラを用いた橋梁点検を実施することで、令和 8 年度までに約 10 万円の事業費削減を目指します。

2. 橋梁修繕工事における新技術等の活用

横断歩道橋の修繕については、管理する横断歩道橋 4 橋全てが健全性Ⅱの予防保全段階であることから短期的な修繕予定はありませんが、塗装工や橋面防水工等の修繕工事を実施する際には新工法や新材料の活用を検討し、横断歩道橋 4 橋について、令和 18 年度までに約 130 万円の事業費削減を目指します。

§ 5. 集約化・撤去等に関する方針

管理する横断歩道橋 4 橋について集約化・撤去の検討を行った結果、(仮称)北習志野駅前歩道橋及び(仮称)小室駅前広場スロープについては鉄道駅と直結した橋であり現状利用者が多く、海神歩道橋については船橋駅に近く利用者が多いことに加え、鉄道の下を通過するアンダーパス上に架設された橋であり、迂回路を通行した場合、約 300m (所要時間約 7 分 (信号の待ち時間を含む)) を迂回することとなります。また(仮称)船橋新京成団地センター前歩道橋についても団地内の居住区域から商店街や保育園のある区域を繋ぐ橋であることから、4 橋について社会活動等に与える影響を考慮すると短期から中期的な期間において集約化・撤去を行うことは困難な状況です。今後、維持管理費の負担増が想定されるため、定期点検結果、利用状況、地域住民との合意形成の結果を踏まえ、代替可能な老朽化した施設に対し、集約化・撤去を検討し事業費削減を目指します。